

7. マッチング

単なる「譲渡」になるか「適正譲渡」となるか……その違いをまず分けるのが、マッチングです。かつては「欲しいという方にその場で渡す」あるいは「抽選で飼い主を決める」という方法を取る自治体も多くありましたが、適正譲渡への意識が高まるにつれ、「個々の動物にふさわしい飼い主をマッチングする」という方法に変化してきています。また希望者に「我が家にどんな犬が適しているか」、飼育環境やライフスタイルに照らし合わせて冷静に考えてもらうのは、適正飼養者を増やす飼い主教育の第一歩です。

なぜマッチングを行うのか？

その理由をスタッフ間で再度確認しておきましょう。「譲渡」に対するセンターの姿勢を統一しておくことは、住民への説明の際に重要な要素となります。

① リターン、飼育放棄、遺棄を防ぐ

家庭環境やライフスタイルに合わない動物は、結局のところ飼い主の負担になり、飼いきれなくなり、センターに戻されたり、飼育放棄や遺棄をされたりと、不幸な結果を生みます。

たとえば以下のような例は実際に起こっています。

事例 1 集合住宅に吠えやすい小型犬を譲渡したところ、吠え声の苦情からセンターに戻ってきた。

事例 2 抽選で飼い主を決める譲渡会で、老夫婦に子犬を譲渡したところ、予想以上に大きくなって扱いきれないと飼育放棄してきた。



② 安易な譲渡は、不適正飼養者の拡大につながる

一時の感情や子供にせがまれて「動物をいませぐ飼いたい」と希望する人の言うとおりに、安易に譲渡をしてしまうと、その後に適切な飼育がされず、リターンや放棄まではいかないものの、困った飼い主を増やすだけの結果となります。たとえば、以下のような例です。

事例 1 子供が欲しいと言うので子犬を希望する家庭に譲渡したところ、子供の興味はすぐに失せ、親も時間がないなどの理由で、外に繋がれたまま散歩も行かずただ餌をやるだけの飼育をしている。

③ 「飼いたい犬」が「飼える犬」とは限らない

流行の犬が飼いたい、子犬から育てたい、などのイメージ先行で動物を希望する家庭に、その要望通り譲渡しても、現実には飼育が難しく持てあます、ということがあります。トリミング犬種の場合は、トリミングにどれだけ費用がかかるか経済的な部分の確認が必要ですし、子犬の場合しつけにどれだけ時間と手間がかかるかをきちんと説明する必要があります。マッチングの際に家族全員の同意が得られていることはもちろん、動物を飼うに当たっての費用についても確認しないと後々の問題に発展します。

事例 1 流行犬種が欲しいとプードルを希望する家庭に譲渡したが、トリミングにこんなにお金がかかると思わなかった、これ以上飼うのが難しいと相談があった。

事例 2 「病気があってもかわいそうな犬を救いたい」と希望する主婦に老犬を譲渡したところ、病気の治療に多額の費用がかかって家庭内で問題が発生。夫からセンターに戻すよう言われている。

④ 抽選は、本来の「適正譲渡」の目的に大きく外れる

一見公平に見える「抽選」方式ですが、①～③でみたような問題を引き起こすリスクが非常に高いと言わざるをえません。また、動物愛護の精神から言っても「生き物（命）の運命を抽選にかける」という方法が、一般の理解を得るのは難しいでしょう。

どのようにマッチングを行うか？

譲渡希望者の生活環境やライフスタイル、どんな動物を希望しているか？
を詳しく聞き取っておきます。



適性評価テストや、日常の世話の中から、性質をみきわめておきます。



マッチング



個別譲渡スタイル

よりよい組み合わせをスタッフ間で相談した上で、希望者と動物のお見合いを個別に設定。不安のある場合はトライアル期間（2週間程度）を設けて様子観察をしてもらいます。



譲渡会スタイル

譲渡会で、実際に動物を紹介しながら、よりよい組み合わせのアドバイスをします。

より適正な譲渡につなげるには、個別譲渡がおすすめです。

なぜマッチングを行うのか、どのような考え方でマッチングを行っているか、一般に対してきちんと説明する資料を作っておくのもいいでしょう。「なぜうちは子犬がもらえないのか？」というようなクレームへの対処法の一つとしても使えます。P.35 「うちの家族には、どんな動物がぴったりかな？」を参考にしてください。

犬のマッチングのアドバイス

小さい子供のいる家庭には……

子供に対して温厚にふるまえる犬がいいでしょう。子供というのは急に犬に触ったり、高い声を出したりします。そうした行為にどんな行動を見せるか、適性テストの項目に加えるのもいいですが、実際の子供に会わせてみないと反応が分からない場合もあります。譲渡会などでセンターに子供が来たときの犬の反応をよくチェックしておきましょう。

なお、子供の性別や年齢・性格によっても、ぴったりの犬は異なります。小学生の男の子の兄弟がいる場合には、多少乱暴な扱いでも気にしないおらかな元気で活発な犬がいいでしょう。比較的小となしい女の子がいる場合は、活動的すぎない落ち着いた犬がお勧めです。やんちゃ過ぎる犬だと子供のほうが犬を怖いと感じてしまうかもしれません。いずれにしても、基本的に犬の世話は親が行い、子供も手伝うというスタイルを指導しましょう。



共働きの夫婦、留守番時間が長い家庭には……

実は、犬よりは猫がお勧めです。犬の場合なら、若い犬は避けて、落ち着きのあるタイプ、独立心の強いタイプで、一匹でいることが苦にならない犬がいいでしょう。収容期間中に一匹でケージに入れたり、一匹で繋いでおいたりして様子を見てみましょう。ケージに入っていることが負担になっていない、繋がれた場所で落ち着いていられる、そんな犬なら留守番が長くても負担は少ないでしょう。また、特定の人にあまり執着しない犬のほうがいいでしょう。子犬を希望されたら、子犬の飼育には手間と時間がかかることを十分に説明しましょう。

ペット可のマンションに住んでいる家庭には……

集合住宅には、吠えにくい犬を薦めるのが一番です。ただし、ペット可マンションの多くは「小型犬まで」と規定されていて、そして小型犬のほとんどは吠える傾向を持っています。センターでは吠えていなくても、環境になれると吠えだす小型犬も多いことを注意しましょう。なお、小型犬の中でも、シーズーやパグなど短頭種のほうが吠えにくい傾向にあります。また日本犬系雑種のほうが小型洋犬よりは吠えにくいので柴犬サイズくらいまでOK というマンションなら、この選択もありでしょう。



家族全員が大人で、比較的静かに暮らしたい家庭には……

実は犬よりも猫がお勧めですが、犬の場合であれば、落ち着いて行動できる中高齢以上の犬、動きが緩慢な犬、サイズで言うと小型犬より中型犬をお勧めしたいところです。小型の犬は動きが活発で、室内でもエネルギーに動きませんが、大型犬・中型犬は、室内ではのんびりおっとりできる犬も多いのです。

外飼いを予定している家庭には……

最初から外飼いを希望する家庭には、これまでずっと外で飼われ、吠え声などの問題が起きていなかった、性格の安定した、中型以上の成犬を薦めるのがいいでしょう。飼い主の引っ越しなどで飼育放棄されたけれど、性格に問題はない犬もいるはず。これまでずっと外飼いだっただの犬の中には、家の中に入るとなかなか落ち着かずストレスになる子もいますから、そうした犬には再び外で暮らす生活もいいでしょう。ただし、外飼いであっても犬のニーズを満たすようきちんと指導しましょう。



番犬を欲しいという家庭には……

まず家の周囲が、本当に吠えて大丈夫な環境かどうかを確認しましょう。問題がなければ、比較的吠えやすい犬を薦めることもできます。ただし「怪しい人が来たときだけ吠える犬が欲しい、というのは無理であること」「吠えやすい犬は、すべての人間や犬、動物、音などの刺激にも吠えるものだということ」「四六時中吠えていても本当に飼い主も周囲も耐えられるか」などを、しっかりと希望者に伝え、確認しましょう。

これまでに犬を飼った経験もあり、犬と積極的にアウトドアなども楽しみたいという家庭には……

活発で楽しい犬、逆にいえば、興奮レベルが高く、いたずらや甘噛みも激しく、運動量も相当必要となる犬（あるいは、そんな将来を予測できる子犬）も、任せられるでしょう。散歩や遊び、トレーニングなど、犬に多くの時間を割くことができ、犬との生活を楽しめるなら、最高のパートナーになるでしょう。逆にそうした犬は、一人暮らしや高齢者、また留守が多い家庭には不向きです。



すでに先住犬のいる家庭には……

まず、先住犬に不妊去勢手術が施されているかを証明書などで確認。その上で、先住犬の性格を聞きましょう。他の犬に対してシャイな犬なら、新たな犬が入ることでもストレスを感じてしまうかもしれませんから、譲渡は見合わせたほうがいいかもしれません。先住犬が他犬とのふれあいを楽しめる犬ならば、新人が入ってもストレスは少ないでしょう。ちなみに比較的うまくいくのは、以下のような組み合わせです。

- ・ 異性同士
- ・ 年齢差がある（大人の先住犬に、子犬を会わせる）
- ・ 純血種ならば同犬種（遊びやボディランゲージが同じなので仲良くなりやすい）

また、二匹の関係がうまくいくかどうか、実際に犬同士を会わせ、トライアル期間（2週間程度）を設けてみるのもいいですが、その際には最初の出会いが肝心。そのポイントは以下の通りです。

- ・ 最初に会う場所は家の敷地外にする（先住犬のテリトリーである家や庭に新人が侵入してくる、という状況を避けます）
- ・ 犬同士を無理やり近づけるのではなく、最初は少し距離を置いて、同じ方向に進む散歩を一緒にすることから始めるのもいいでしょう（仲間意識が芽生えます）

犬種傾向を知っておきましょう

現在、日本全国の施設で数多くの純血種の犬が収容されています。彼らを適正に譲渡していくには、それぞれの犬種の特徴や、行動の傾向を把握しておくことが必要です。犬種図鑑なども読んでみましょう。以下は、特にマッチングの際に気を付けたいポイントです。

ボーダーコリー、 コーギー、シェルティ など、牧畜犬

車やバイク、自転車や走る人を追いかけようと過剰に吠え興奮しやすい傾向があります。スポーツやトレーニングと一緒に楽しむには最適ですが、こうした犬種の経験がない人には難しいタイプです。



柴犬、秋田、 甲斐犬など、日本犬

自立心が強く、一人の飼い主になつく「ワンオーナータイプ」。体を触られたり、他犬と協調するのが苦手な傾向にあります。そうした性格を理解して飼ってくれる人向き。柴犬はラブラドルにはなれませんし、そこが魅力なのです。

ビーグル、ダックスフント など、セントハウンドタイプ

においを追ってどこまでも吠えながら獲物を追いかけるために作られた犬たちです。サイズの割にはタフなので、しっかりとエネルギー発散をしてやらないと、吠える、ものをかじる、におい嗅ぎがひどい、という問題が起こることもあります。



ラブラドル、 ゴールデンなど、 レトリバータイプ

他の犬種に比べて「ものをくわえたい」という欲求が強く、いたずらも相当なものになりがちです。適切なかじるおもちゃなどを与え、また散歩やボール遊びなどで有り余るエネルギーを発散させてやることのできる家庭がいいでしょう。

トイプードル、マルチーズ、チワワ などの小型愛玩犬

愛玩犬は、昔は「ベルドッグ」として、侵入者を吠えて知らせる役目を持っていました。いまでも非常によく吠える傾向にあります。集合住宅などでは吠えないようにさせる工夫が必要でしょう。



うちの家族には、どんな動物がぴったりかな？

なぜマッチングを行うのか、どのような考え方でマッチングを行っているか、一般の方に渡せる資料を作っておくのもいいでしょう。「なぜうちは子犬がもらえないのか？」というようなクレームへの対処法の一つとしても使えます。「子供が欲しがらるから」という場合も多いので、子供にも分かるような資料にするのもいいでしょう。以下を参考にしてください。

うちの家族には、どんな動物がぴったりかな？

センターでは動物を譲渡するときに、「抽選」方式は行いません。

「この子が欲しい」と希望しても、「はいどうぞ」とすぐにお渡しすることもしません。

それぞれのおうちの環境や生活スタイルに合わせて、人も動物も本当に幸せな毎日を送って欲しいという思いから、「マッチング」をした上で譲渡をしています。マッチングというのは、動物と飼い主家族の、最高の組み合わせを考えることです。

動物が欲しいというご希望を頂いたら、家族構成や住んでいる家の環境、これまでに動物を飼ったことがあるかなど、アンケート用紙に書いてもらいます。



担当の職員が、どんな犬や猫が欲しいか、小さい子がいいか大きい子がいいか、具体的な希望と、どこで飼うのか、誰が世話をするのか、将来引っ越しがあったらどうするつもりかなどを聞きます。



アンケートとお話を元に、譲渡候補動物の中からふさわしいと思われる動物をご紹介します。ふさわしい動物がすぐにいない場合は、そういう子が出たときにご連絡します。



家族全員で会いに来てもらいます。「この子とずっとずっと一緒に楽しく暮らしたい」家族みんながそう思ったら、譲渡の手続きに入ります。

ちょっと面倒、と思われるかもしれませんが、この「マッチング」をちゃんとしないと、いろいろな問題が起きてしまいます。

マンションに暮らす
家族に吠えやすい
小型犬を譲渡したら

吠え声の苦情から、
センターに戻って
きてしまった

子供が自分で世話を
するという約束で
子犬をもらったら

子供も塾などで忙
しく、親も時間がない。結局、外に
繋がれたまま散歩も行かずただ餌を
やるだけの飼い方になっている

老夫婦だけの家庭
に子犬を譲渡したら

自分たちの体調
も悪くなり、予想以上に
大きくなった犬を扱いき
れないとセンターに相談

犬も猫も今は長生きです。10年から20年という長い時間を一緒に過ごす動物を慎重に選ぶことは、飼い主さんにも動物にも大事なことです。家族みんなで考えてみてください！

猫のマッチングのアドバイス

猫に関しては圧倒的に数が多いので、希望の多い子猫からどんどん譲渡していくことを第一に考えましょう。以下のようなポイントを参考にしてください。

子猫を希望する人には、二匹一緒に勧めてみる……

子猫は非常に活発で遊び好きです。この遊び欲求を満たすことができないと、問題行動（いたずらや人の体へのじゃれ噛み、過剰な興奮など）につながります。運動不足が発育に影響を与えることもあります。しかし、子猫の遊び欲求に人間が完全に付き合うことはなかなか困難です。特に一人暮らしや、夫婦共働きなど留守番時間が長い家庭ではなおさらでしょう。そこで月齢の同じ位の猫同士（きょうだい等）二匹での譲渡を勧めてみましょう。二匹で遊べばエネルギーの発散ができ、また室内でも退屈をせずに暮らせるでしょう。ただし、同性同士を譲渡するか、不妊去勢手術をすぐにしてもらえる確約（譲渡時に動物病院の予約を取ってもらうくらいの方が安心です）が必須条件です。



成猫の良い点も伝えよう……

子猫だけではなく、成猫の譲渡も考えるなら、まずその猫の性質を見ましょう。犬のようにテスト形式で適性を見ることはほぼ不可能ですので、普段のケアの中で性質を把握しておくことです。どんな人にもなつき、センター収容時でも扱いやすい猫であれば、新しい家庭に馴染むのにもさほど時間はかからないでしょう。成猫の良い点は、「子猫ほど活発ではないことが多いので、扱いやすい」「性質が安定している」という点です。猫との穏やかな暮らしを望んでいる家庭には、子猫よりも、おっとりした成猫の方が絶対にお勧めです。

先住猫がいる家庭の場合は慎重に……

まず、先住猫に不妊去勢手術が施されているかを証明書などで確認。その上で先住猫の性格を聞きましょう。先住猫がシャイ（人に対してではなく猫に対して）で社会期に他の猫との接触が少なかったようなら、譲渡を見合わせた方がよいかもしれません。先住猫が新しい猫を受け入れられず、ストレスで病気になる可能性もあります。どうしても、という場合にはトライアル期間を設けて（2週間程度）関係を見るのも一つの手でしょう。また、新しく入ってくるのが子猫だと、先住猫も受け入れやすい場合が多いようです。



長毛種の猫を希望されたら、必ず伝えること……

毛が長いタイプの猫は、人間がブラッシングをしてやる必要があります。そうしないとあっという間に毛玉になります。猫は自分でグルーミングするから人の手は必要ないと考えている人も多いので、長毛、中毛の猫の場合はそうではないときちんと説明しましょう。ブラッシングを受け入れる猫にするには、子猫の頃から体に触られることに慣らし、ブラシに慣らす必要があります。子猫が食事をしている間に、そっとブラシを入れてみることから始めるよう、指導しましょう。（食事を邪魔されるのを嫌う猫なら、眠そうに穏やかな時間にごく短い時間だけ優しくブラッシングすることから始めましょう）

猫好きのこだわりを大事に……

猫を飼いたい人は、猫の容姿に関するこだわりが強い場合が多いようです。たとえば代々キジトラを飼っていたので次もキジトラがいい、尻尾が曲がっているのがいい、足袋をはいている（足先だけ白い）のがいい、など千差万別。また地域によっては、黒猫は縁起がいいとして望まれる場合（あるいはその逆の場合も）あります。そうした要望をよく聞き取り、希望する容姿の猫が入ってきたらすぐに連絡する、譲渡会にはさまざまな容姿の猫をそろえておくなどしましょう。子猫の数が多く選択をしなければならない場合、同じような容姿の子猫ばかりにならないように、という基準で行っている自治体もあります。



子猫の性質別の譲渡のアドバイス

(子猫の性質を見る方法については、「子犬と子猫の適正譲渡ガイド」をご覧ください)

●活発な猫の場合



家族が多く、猫に時間を割き、かまってあげられる家庭向き。老人だけの静かな家庭には不向きです。遊びに時間を多くとれる家庭に譲渡しないと、エネルギーの発散不足で、人の体への甘噛みや遊びでのひっかきがエスカレートする可能性も高くなります。猫のいたずらや室内での落ち着きのなさ（発散のために走り回る等）を環境的にも受け入れられる人がいいでしょう。

●ノーマルな猫の場合



比較的どんな家庭でもいいでしょう。ただし、猫は新しい環境に慣れるのが苦手な動物です。施設では人に慣れているようでも、譲渡先ではなかなか慣れてくれない、という場合もあるでしょう。無理強いせずに、ゆっくりと様子を見守ってくれるようにアドバイスするのを忘れずに。

●シャイな猫の場合



子供のいない、静かな大人だけの家庭向き。留守がちでもかまいませんが、ゆっくりと気長に根気強く猫が慣れるまで穏やかに接してくれそうな人がいいでしょう。以前に猫と暮らした経験が豊富な方や、同じようなシャイな猫と暮らした経験のある人ならよりよいでしょう。また、慣らすのに時間がかかりそうであれば、民間の愛護団体へ団体譲渡し、適切なケアをしてもらいながら、その後の譲渡を検討してもいいでしょう。